

北雪
美談
時代鏡

春
水作

三十三編上

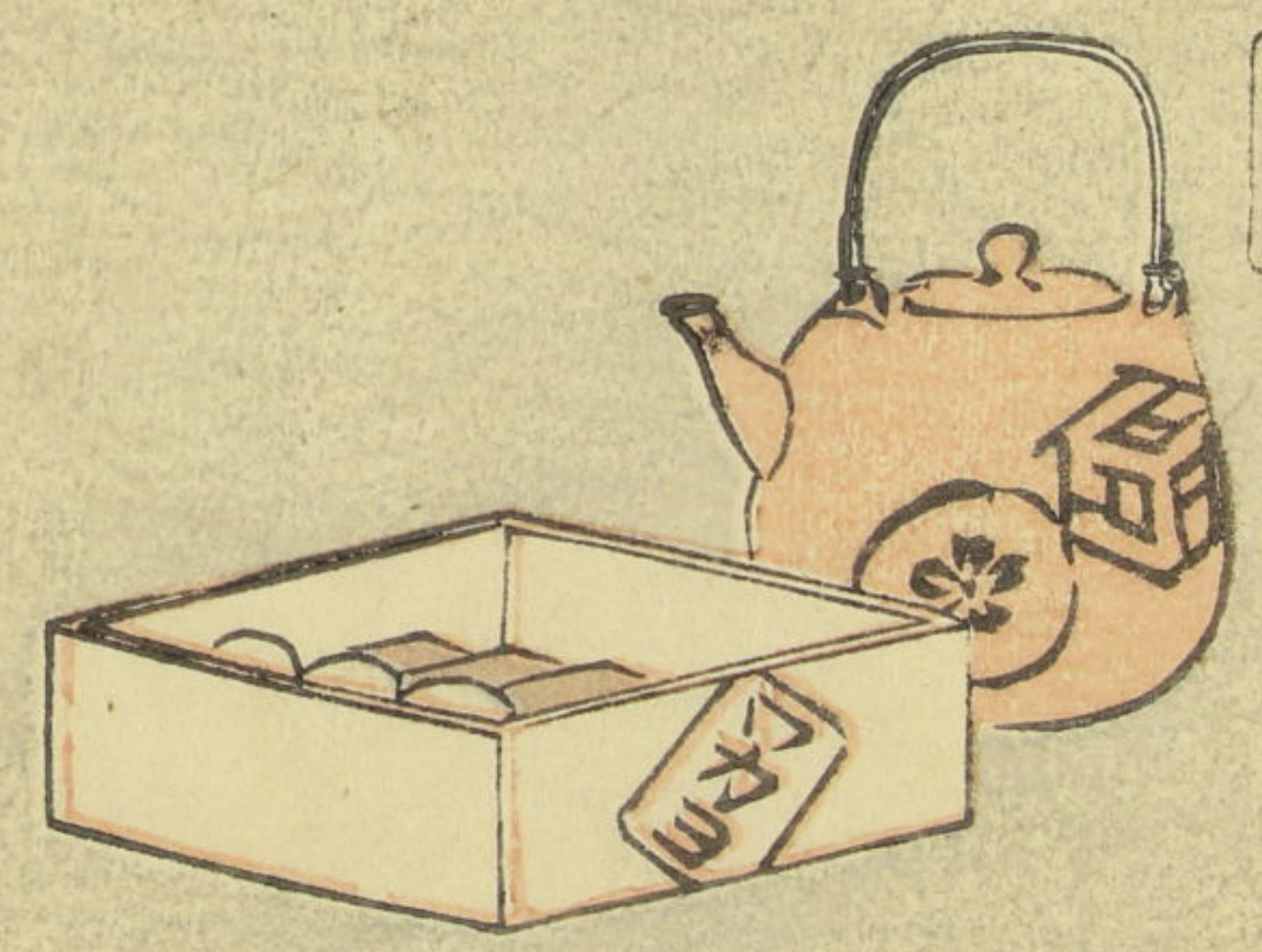
~ 13
3740
65



門へ13
3740
巻 65

小重
美珠
時代
加賀見
三平三編
上の巻
春水化
國貞壺

司馬



一

總トて作物語ハ寂々後少艷場と見せ時代
世話と挟む或もて看官を以て倦しり予然
六段目の身售ありたるより泣せその跡茶屋
場下換へてまのたりと目先と換へ作者の手柄
自由小筆の動る或遅りと酒を飲まざると書房小
屋責らるる風雅でもる酒落でもる詮術あるの
山の段かの稲妻が躰家ととんど所へ忠臣藏の文句
借く這編ハ先づ幕小へ閣吏あつた。

甲子新春
為永春水記

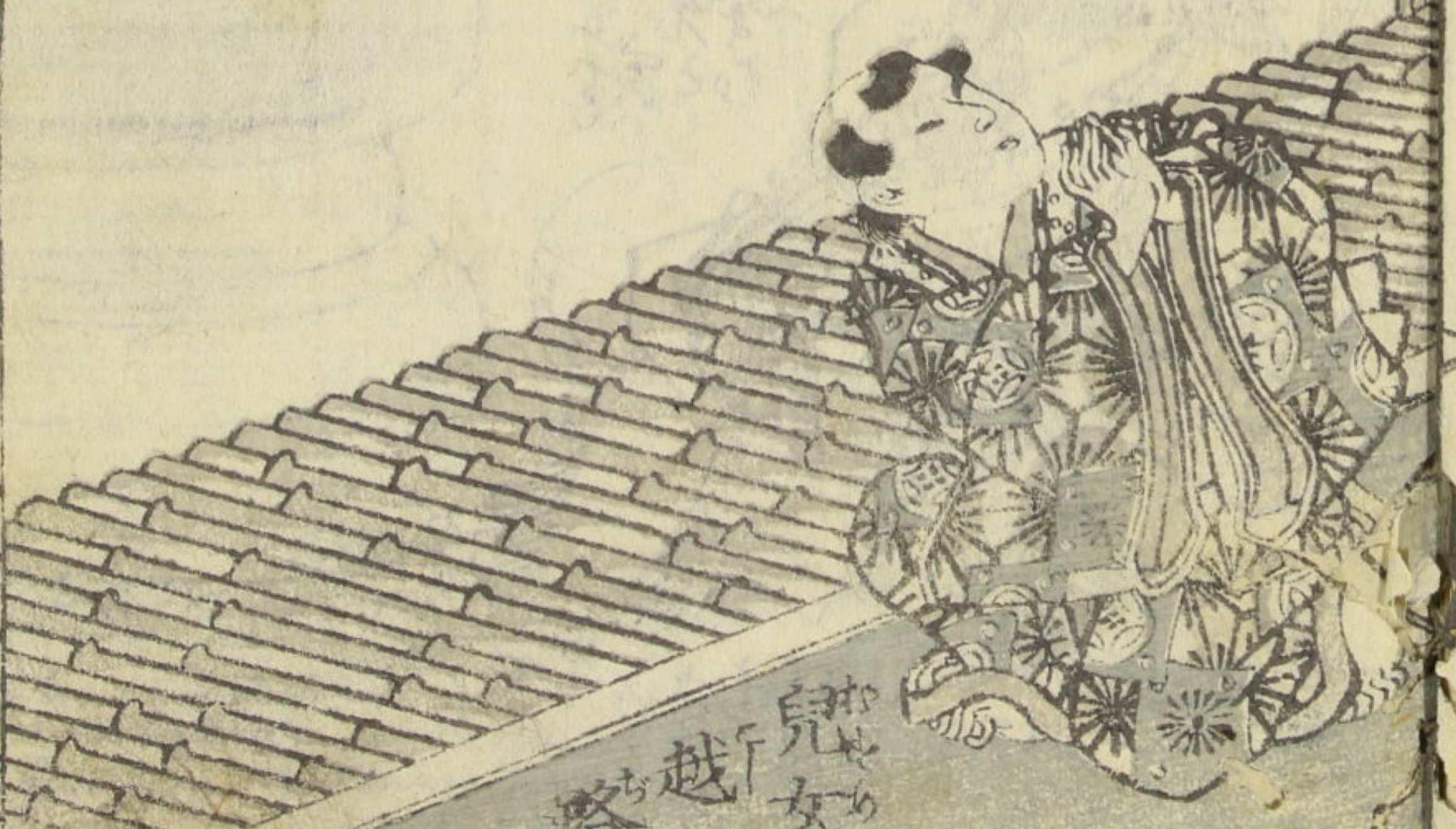
詩七三十三



餅高客正七

ちんちん
ちんちん
ちんちん

餅高客正七



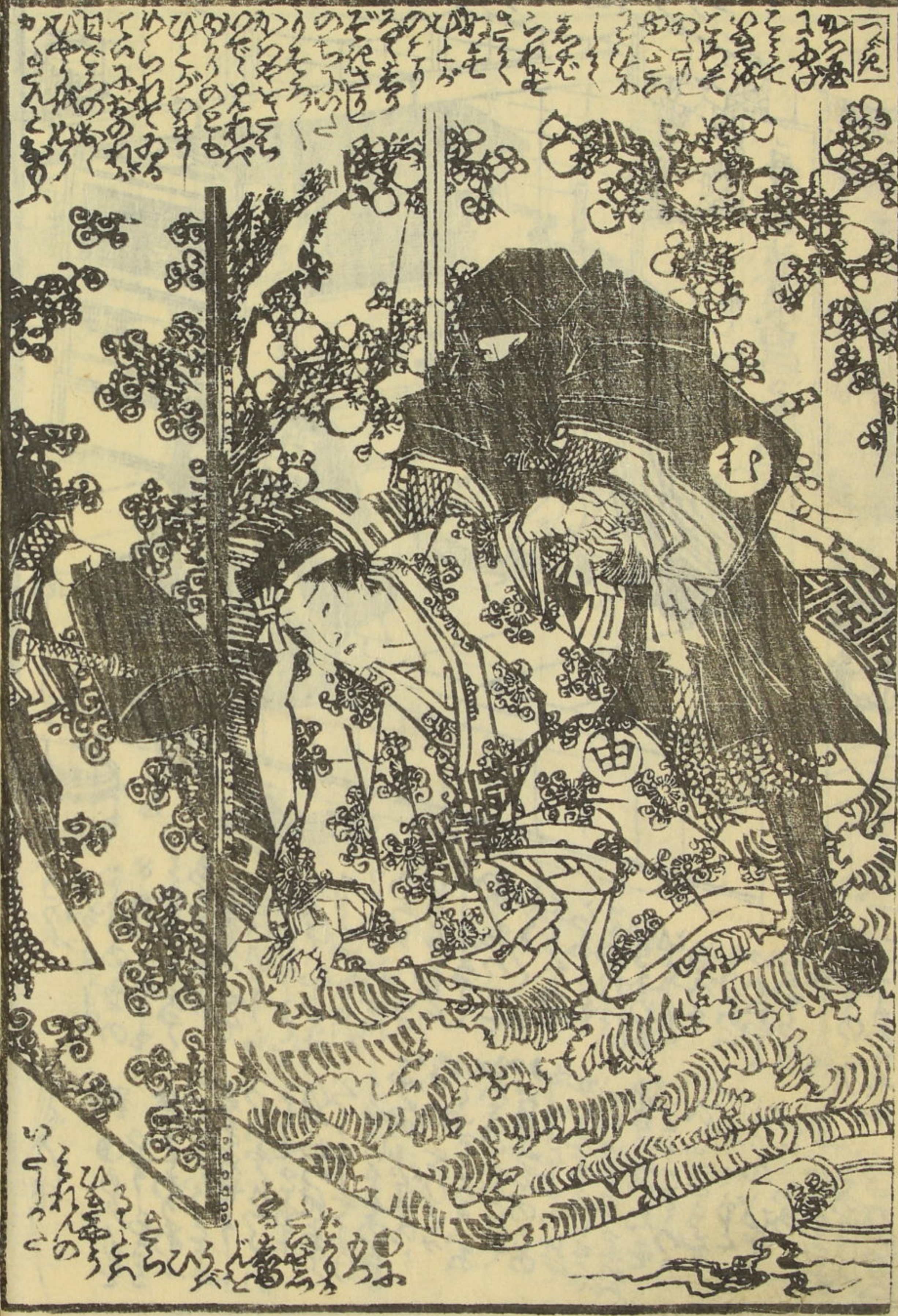
兒女
越路



淫婦
阿無天



井ノ口



甲代三十三



甲子三十一

一 御書



甲子三十二

六

